

## 大阪府立障がい者自立センター退所者アンケート調査結果

### I. 調査概要

1. 調査対象： 令和4年4月から令和6年3月末までに退所された方 132人
2. 調査期間： 令和4年4月1日～令和6年3月31日
3. 回答率：80%（106人／132人）

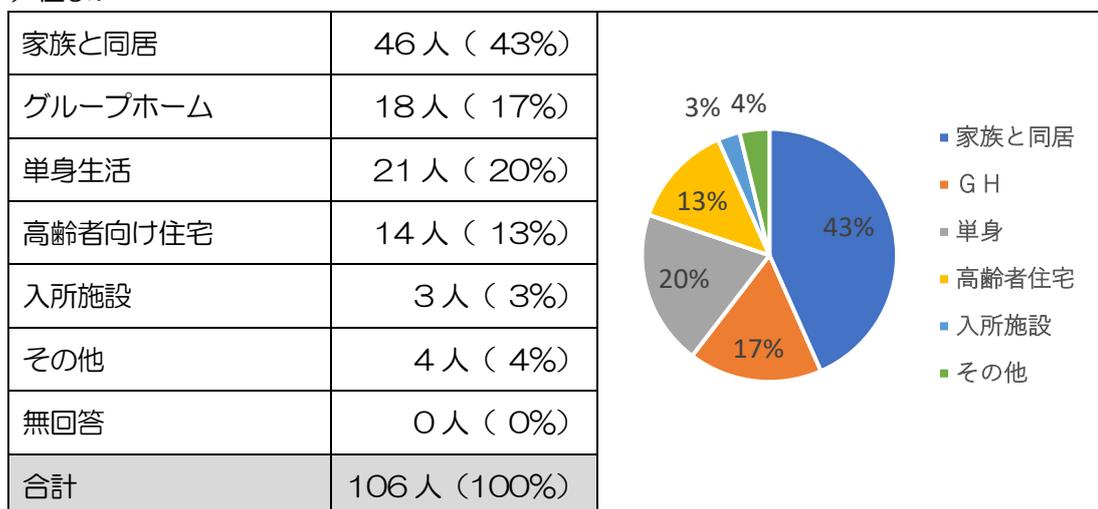
※構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

※記述欄は、原文のままです。

### II. 調査結果

#### 1. 退所後の暮らしについて

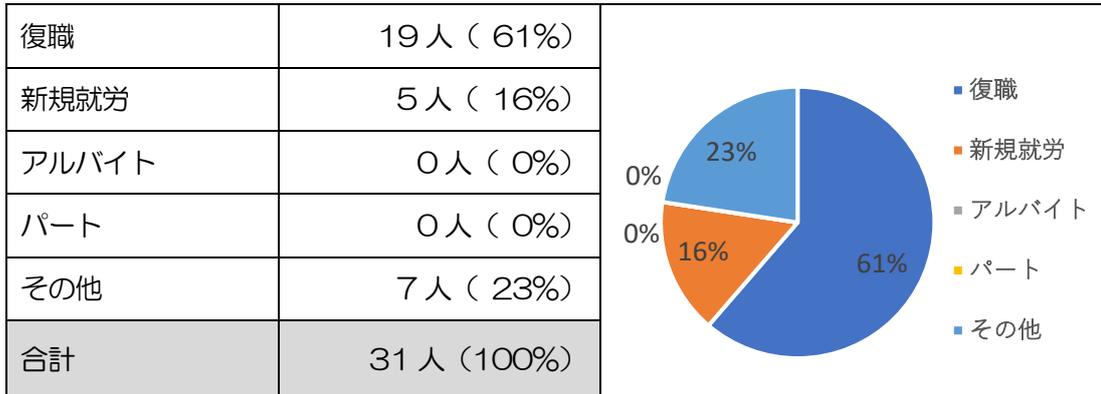
##### (1) 住まい



##### (2) 日中活動（複数回答可）

就労	31人（16%）
学校（復学）	10人（5%）
障がい福祉サービス	64人（32%）
介護保険サービス	45人（23%）
家事・趣味等	36人（18%）
無回答	13人（6%）
合計	199人（100%）

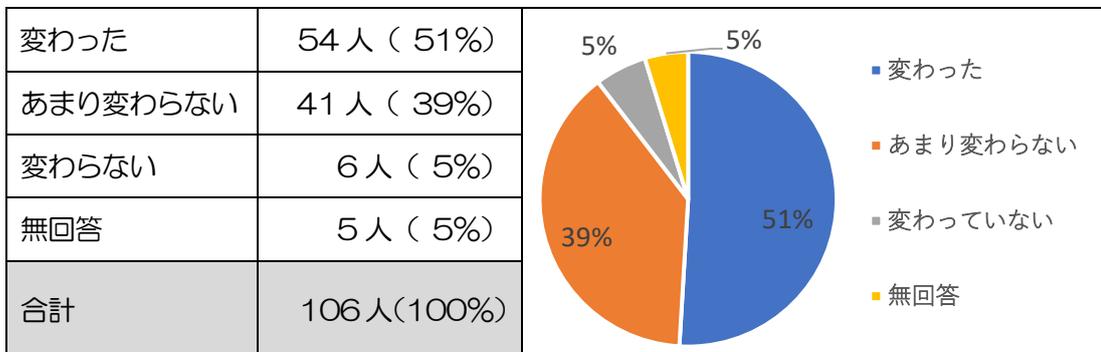
◆ (2) 日中活動のうち「就労」の内訳



◆ (2) 日中活動のうち障がい福祉サービス利用（複数回答可）

障がい者職業能力開発校	0人 (0%)
就労移行支援	12人 (19%)
就労継続支援 A 型	0人 (0%)
就労継続支援 B 型	23人 (36%)
生活介護	8人 (13%)
地域活動支援センター	3人 (5%)
自立訓練	0人 (0%)
訪問サービス	10人 (16%)
その他	8人 (13%)
合計	64人 (100%)

(3) 自立センター利用前後の変化

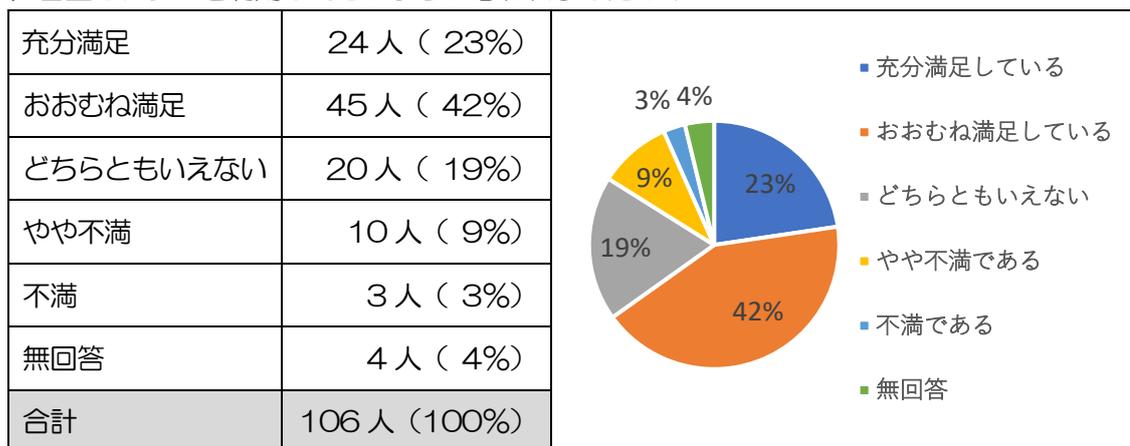


＜「変わった」と回答した人の意見＞

- すごく健康的で規則正しい生活を送れている。
- 車いすの使用方法がわかるようになった。
- 日にちや時間を意識することができるようになった。言葉の数が多くなった。表情が豊かになった。良く笑うようになった。嬉しい、楽しみなど感情を表現できるようになった。何度も繰り返したことを少しずつ覚えられるようになった。
- できることが増えた。言葉が出るようになった。歩けるようになった。物が覚えられるようになった。
- 行動範囲が単独で広がった。電車、バスが利用できるようになった。エスカレーターものれるようになった。
- 自分の障がいに対する向きあい方を学びました。

2. 自立センターについて

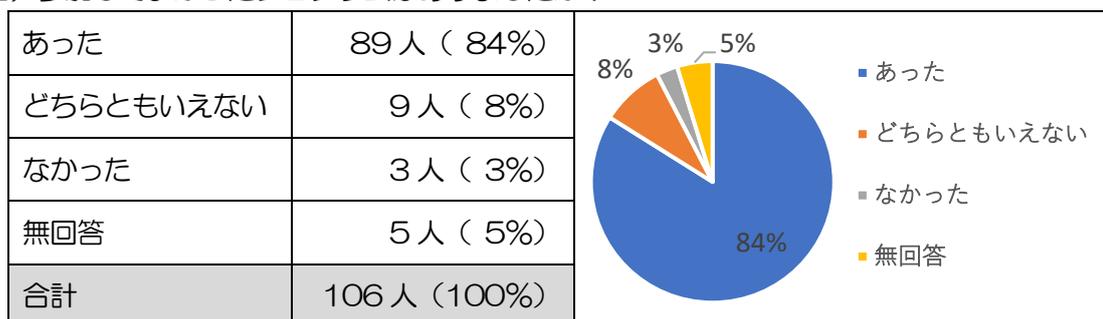
(1) 自立センターを利用してどのように思われましたか？



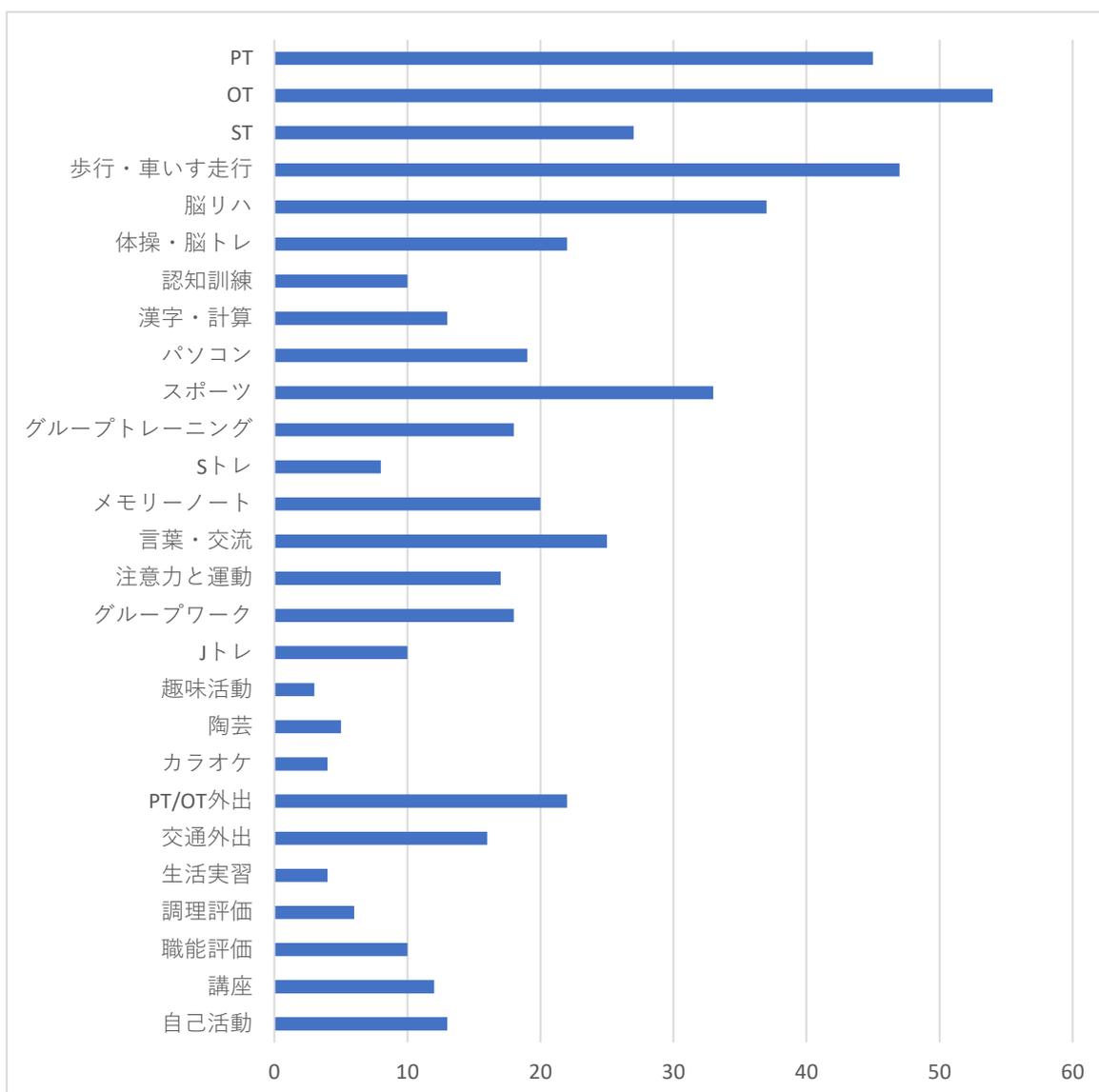
＜利用者の感想（不満な点）＞

- OPT、OTの時間がもう少し欲しいです。交通外出をもっとしてほしかったです。
- コロナの影響が大きいですが、もう少し外出したり料理を作ったりして実生活に近い環境があればよかったなと思いました。
- 利用者同士のコミュニケーションがうまくとれなかった。プログラムの内容がイメージと異なることが多かった。
- 自主トレを早くできるようにしてほしかった。利用料の支払い方法を振り込みではなく、引き落としなど、もう少しコンビニ払いとかできるように便利にしてほしかった。グループワークをもう少し長くしてほしかった。

(2) 参加してよかったプログラムはありましたか？

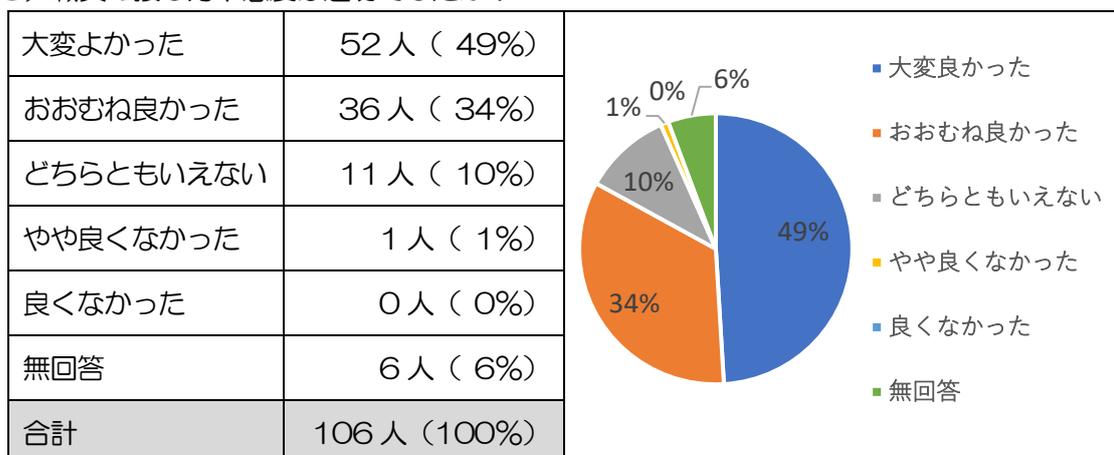


◆参加してよかったプログラム（複数回答）



※各プログラムの内容については、p.10～11をご覧ください。  
受講するプログラムは、利用者によって異なります。

(3) 職員の接し方や態度は適切でしたか？



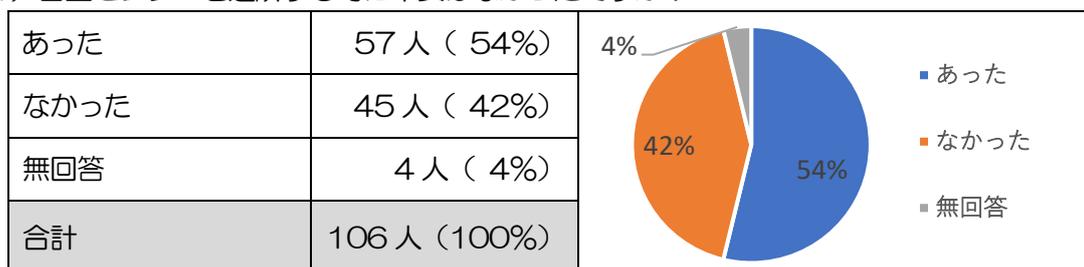
<良かった点>

- 言ったことに素早く対応してくれた。
- 記憶障がいなので同じことを何度も聞いたりしましたが嫌な顔せず丁寧に教えてくださったこと。(後日以前聞いたメモが出てきて同じことを聞いたと気づいたことが何度もありました。)
- みなさん明るくて元気をもらえる様に感じました。こちらの胸の内もじっくりと聞いて頂けた事に感謝しております。
- 具合の悪い時に適切なフォローをして貰えた事。
- とても優しく丁寧に接していただいた。
- 数日間でほとんどのスタッフが自分の名前を覚えてくれた。明るく、元気、親切。できていない所をきちんと説明してくれ、納得させてくれた。

<良くなかった点>

- チーム外の職員さんとのコミュニケーションが少なかった。
- ため口で話し出す人がいて気分が悪かった。
- ちょっとおせっかい。
- いそがしそうだった。
- 早口で話されたときに理解できない時があった。できればテンポを合わせてほしいことがあった。

(4) 自立センターを退所する時に不安はなかったですか？



<「不安があった」と回答した人の意見>

- センターを利用しても大きな体の変化がなかったので、これでいいのかな？と思った。
- 入浴が上手くできるか心配。麻痺の左手が動かなくなるような気がする。
- 就労による収入の確保。健康面での不安（症状の悪化や新たな病気など）。
- これからの仕事がか心配。
- 就労に関して、ほとんど話がなく、どうすればいいのかわからない。何かできるのかわからないまま。
- リハビリをたくさん受けれるかどうか。
- 障がい年金の手続きが終わっていない。

3. これからの生活について

(1) これからやってみたいことは何ですか？

- 旅行へ行く。
- 働きたい。
- 独立したい。
- 料理・友達と会う・働く。
- 階段昇り降りができるようになりたい。
- 外食。
- 復職に向けての訓練。
- リハビリをもう少し頑張りたい。
- 就職して経済的にも自立していきたい。
- とりあえず復職するために現状から更なる歩行の安定性を獲得したい。
- 一人で買い物。
- 少しずつ行動範囲を広げたい。

(2) こんな支援があればいいのに、と思うことはありますか？

- 自分に出来ることと出来ないことがわかる一覧表があればわかりやすいなと思いました。
- 定期的に困っていることを聞いてくれる人と相談できれば良いと思う。
- センターのような心理の時間がサービスであれば心がらくになると思う。
- OST 訓練がずっとあればよい。
- 自立センターに電話でもいいから気楽に相談したい。
- 体調が悪いときに相談できるところ。(医者を受診するほどではない時)。

### Ⅲ. 調査結果のまとめ

当センターでは、開所した平成19年4月より、退所された方々を対象に利用満足度を把握するアンケート調査を実施してきました。今回は令和4年4月から令和6年3月末までに退所された方々の回答を集計しました。

アンケート用紙は退所された方全員に配布しています。回収率は80%となり、前回より7%低下しました。

退所後の住まいについては、前は家族と同居が54%で半数を占め、次いでグループホームが17%となっていました。今回は家族と同居が43%と半数を下回りました。グループホームは今回も17%となり、横ばいです。また、前は単身生活の割合が15%でしたが、今回は20%となり、増加しました。

日中活動では就労された方の復職の割合は前回29%、新規就労が24%であったのが、今回は復職が61%、新規就労が16%となっており、復職の割合が増えています。一方、障がい福祉サービスを利用された方の割合は前回は34%、今回は32%となっており、ほぼ同じ割合で推移しています。

自立センター利用後の生活の変化では、変わったと答えた方の割合が前回より7%減って51%となっています。あまり変わらないと答えた方の割合が前回より18%増加し、39%となりました。変わらないと答えた方の割合は、前回は4%、今回は5%と、ほぼ同じ割合となっています。

自立センターを利用した満足度は、前回、十分満足／おおむね満足と答えた方の割合が合計67%、どちらともいえないが16%、やや不満／不満と答えた方の割合が合計6%でした。今回は、十分満足／おおむね満足と答えた方の割合が合計65%、どちらともいえないが19%、やや不満／不満と答えた方の割合が合計12%でした。前回と比べて、やや不満／不満と答えた方の割合が増加した結果となりました。

参加してよかったプログラムがあったかについては、84%の方があったと回答しています。内訳としてはPT、OT、STなどの専門的な訓練とともに、基本的な体力作りの歩行・車いす走行、脳リハや体操・脳トレなどの高次脳機能障がいに関心をあてたプログラム、コミュニケーション能力の向上を図る言葉・交流が高い評価を得ています。

職員の対応は大変良かったと答えた方の割合が49%となり、前回より8%増加しました。おおむね良かったと答えた方の割合は34%、どちらともいえないと答えた方の割合は10%となり、前回の結果とほぼ同じ割合となっています。やや良くなかった、良くなかったと答えた方の割合は、前回はそれぞれ3%と1%、今回はそれぞれ1%、0%となっています。

退所時の心配については54%の方があったと回答しています。日常生活、リハビリ、経済面、就労、学業についての不安を持ちながら退所される方は依然として多い状況です。

今後もアンケートの回収率を維持、向上しつつ、今回いただいた貴重な意見を職員間で共有し、支援の質と利用満足度の向上に努めていきます。

最後に、アンケートにご協力をいただいた利用者・ご家族の皆様方に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

プログラム名	内容や目的
PT(理学療法)	身体・運動機能の把握、評価と維持・向上、特に移動能力の向上をはかる。 関節可動域訓練、筋力増強訓練、基本的姿勢訓練など。 ※対象は機能訓練の利用者のみ
OT(作業療法)	日常生活動作能力、認知能力の向上をはかる。 巧緻性動作訓練、関節可動域訓練、筋力増強訓練、日常生活動作訓練、認知訓練など。
ST(言語療法)	失語症・高次脳機能障がいの利用者を対象に、コミュニケーション能力の向上をはかる。 失語症・高次脳機能障がいの評価・訓練、その他のコミュニケーション手段の検討など。
歩行・車いす走行	歩行能力・車いす駆動能力・基礎体力の向上をはかる。活動性の向上をはかる。
グループトレーニング	ストレッチ・筋トレなど、基本動作の向上のための基礎訓練。グループにより、更衣等日常生活動作の基礎的動作、外出、コミュニケーション等を行う。
入浴	日常生活動作の向上をはかる。 利用者個々の介助方法の評価など。
スポーツ	スポーツを通して、心身の健康の維持・向上をはかる。 ボッチャ、グランドゴルフ、ボウリングなど。
グループワーク	小人数のグループにて、高次脳機能障がいの理解・受容の促進や地域生活にむけた課題の整理をはかる。自分の心身の変化に気づき、ストレスへの対処法を身につける。
パソコン	基本技能の習得と向上。認知機能の改善をはかる。 タイピングや文章作成など。
脳リハ	認知機能の維持、改善をはかる。注意、集中力の向上をはかる。 文章文字消し、漢字や計算のドリル、書写、脳トレーニングなど。
認知訓練	聞き取り・書き写し・発表などの課題を通して、集中力・記憶力やコミュニケーションの向上をはかる。
体操・脳トレ	運動(移動)を伴う認知訓練。
メモリーノート	予定管理能力の向上、記憶障がいや遂行機能障がいの代償手段の獲得をはかる。
注意力と運動	記憶障がい、注意障がいや半側空間無視の症状に気づき、周囲に注意を向けながら、安全に行動や移動ができるようになることを目指す。
言葉・交流	言葉以外の手段も利用して、生活上の簡単なコミュニケーション能力の向上をはかる。失語症の利用者同士の交流をはかる。コミュニケーションを楽しむ。
Sトレ	共同作業を通して他者との交流を楽しみながら、活動性の向上や作業能力の向上をめざす。
Jトレ	模擬的な事務作業を行い、作業能力の向上をめざす。

趣味活動	余暇活動の充実や書字能力・集中力の向上をはかる。利用者同士の交流をはかる。 書道・筆ペン習字・写経・絵画・絵手紙・塗り絵など。
陶芸	余暇活動の充実をはかるとともに、手指を使う機会とする。
カラオケ	余暇活動の充実をはかる。(コロナウイルス感染症対策により自粛中)
PT/OT 外出	外出時に介助や見守りが必要な利用者に対し、理学療法士や作業療法士が車いす操作訓練や近辺外出訓練を行い、単独外出範囲拡大をはかる。
交通外出	公共交通機関(電車・バス)を利用した単独外出の練習と評価。 ※単独での外出を想定し、障がい者手帳の提示や駅員への介助依頼も利用者が行う
生活実習	キッチンや浴室のある個室にて、単身やグループホームでの生活を想定した生活(買い物・調理・清掃・入浴等)とその評価を行う。
調理評価	調理動作の練習・評価を作業療法士が行う。
職能評価	軽作業と事務作業を通し、就労をめざすための基本的な能力の確認を行う。
作業体験実習	厨房業者の協力を得て、食堂にて配膳・後片付けの実習と評価を行う。(コロナウイルス感染症対策により自粛中)
講座	健康管理や社会資源の利用など地域生活で必要となる内容について、啓発や情報提供を行う。
朝の会	見当識や連絡事項の確認や記録、スケジュール管理の習慣化をはかる。体操やストレッチによる身体機能の維持、向上をはかる。
自己学習・自主トレーニング	自由時間に各自で設定した課題(計算ドリル、パソコン等)に取り組む。PT/OT/ST から自由時間に行う自主トレーニングを提案。※取り組む内容や量については、必要に応じて職員が支援

※ プログラムの名称や内容は令和4年11月時点のものであり、今後変更となる可能性があります。